

# 庄内ふるさとCAMP イベントレポート

～庄内地域の魅力を親子で体験！～

2026  
Vol. 1



## 【開催概要】

日時：令和8年6月20日（土）14:00～16:00  
場所：関川しな織りセンター  
（鶴岡市関川222）  
参加：29名（子ども15名・保護者14名）  
主催：山形県庄内総合支庁  
運営：Green Blueあつみ



関川しな織りセンター内には、しな織りに使う道具や製品が並んでいます。

## Q.第1回目の内容は・

第1回目のテーマは、「自然糸しなもっこ刺繍体験」。  
新潟県と山形県の県境、山間部にある鶴岡市関川地区には、しなの木の皮の繊維を糸にして織る「しな織り」の伝統が受け継がれています。日本三大古布の一つに数えられ、「羽越しな布」として国の伝統的工芸品に指定されています。

当日は、しな織りの生産過程で生じる糸になりきれなかった未利用繊維「しなもっこ」を使用して、計29名の親子が、各々自由なデザインでトートバッグへの刺繍に挑戦しました！

## S.庄内ふるさとCAMPって何？

山形県庄内地域は、豊かな自然・食・文化・温かい人々など、全国に誇れる地域です。「庄内ふるさとCAMP」（略して「ふるキャン」）は、鶴岡市温海地域を舞台に、地元の人々と触れ合いながら、美しい海や山、素敵な食文化を体験する全3回の連続講座です。

本物の自然の中で、見て、聞いて、自分で考えながら、地域の魅力を知り、新しい体験を通して子どもたちの深い学びと成長へとつなげます。

各回当日の様子をレポートします！



しなもっこ



お手本

## ～当日の様子～

### 14:00 クイズで学ぶ！しな織りとは？

木々が生い茂る山道を抜け会場に到着。「キャンプネーム」で自己紹介をした後は、クイズや映像を通してしな織りの歴史や製造工程を学びました。

【例】しな織りはどの時代から使われているのでしょうか？

答えは、縄文時代。参加した子ども達からは、積極的に手が上がり、驚きの声上がるなど自然と雰囲気盛り上がりします。



### ～私が講師です～



NPO法人自然体験温海  
コーディネット 山本 慧 さん  
【ヒトコト】

「皆さんにお会いできるのをとても楽しみにしていました！  
ケーティーと呼んでね！」

### 14:30 いざ、体験スタート！

いよいよ、しなもっこを使った、トートバッグへの刺繍体験が始まります。「どんなデザインにしようかな？」早速、親子で作戦会議。すぐに縫い始めたり、慎重にチャコペンで下書きをしてから縫い始めたり、自由に製作に取り掛かります。また、しなもっこは、太さや長さがバラバラで、強度や縫いやすさを考えてどれを使うかもポイント。

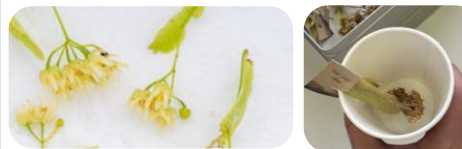


助っ人登場！温海の縫い物名人、みっちゃんとおきよんが駆けつけ、優しく丁寧に縫い方を教えてくれました。心強い！



### 15:20 しなの花ティーでホッと一息。

刺繍もいよいよ大詰め！・・・その前に。しなの木には、毎年初夏にのみ「しなの花」が咲きます。そんな貴重なしなの花を使用した、「しなの花ティー」で一息。五感を使った体験です。



ノンカフェインで飲みやすい！

### 15:45 タイムアップ！

「持ち帰ってもいいですか？」惜しまれつつもここでタイムアップ。各々が夢中になって体験に取り組み、個性溢れるオリジナルのトートバッグが完成しました。

「素敵な思い出を持ち帰り、周りの人に関川やしな織りのことを広めてほしい。」ケーティーからの想いが伝えられ、講座はクローズ。

最後に、全員で集合写真を一枚。（左上）

## ～参加者の声～

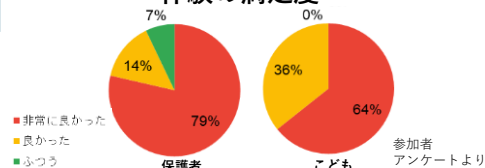
個人のできる体験を超えた、地元密着の体験は面白かったです。

子どもと一緒に体験できるのが思い出にもなるし、大人も学びにつながる。



完成例

## ～体験の満足度～



次号では、第2回R8.8.23（日）の様子をレポートします！